

横浜みなとみらいスマートシティコンソーシアム(横浜市)

国土交通省 スマートシティモデル事業 重点事業化促進プロジェクト

先端技術等を活用した実証実験等の取組を実装のステージへ移すとともに、長年に渡るエリアマネジメントの蓄積を生かし、データや技術の共有基盤の整備と自律的な運営体制を確立し、多様な都市機能がコンパクトに集積した都心型スマートシティモデルを形成する。

■ 対象区域のビジョン

- ・イノベーションの推進により、新たな価値を創造・発信する都市空間の形成

■ 対象区域の課題

- ・地域内の円滑な移動の実現
- ・来街者の増加と就業者の満足度向上
- ・エネルギー使用の最適化
- ・災害に対する安全性とセキュリティ確保

■ 検討内容

【交通】人流データ等を活用した新たな交通サービスの実施・検証

【観光・地域活性化】来街機会の拡大やコミュニティ醸成に向けた来街者、就業者向け情報提供

【エネルギー】「Zero Carbon Yokohama」の実現に向けたエネルギー使用の効率化

【防災・セキュリティ】防災力の強化に向けた緊急情報発信や災害時のエネルギー確保

＜対象区域＞ 横浜市 みなとみらい21地区 186ha



＜多様な都市機能がコンパクトに集積した都心型スマートシティモデル＞
イノベーションの推進により、新たな価値を創造・発信する都市空間の形成

地区課題の解決

魅力の向上

【データ基盤の構築】

データ収集

- ・人流データ
- ・携帯位置情報データ
- ・アプリ利用者の属性データ 等

データ活用

- ・データ共有基盤の整備
- ・実効性のある運営体制の確立

サービスを通じて収集

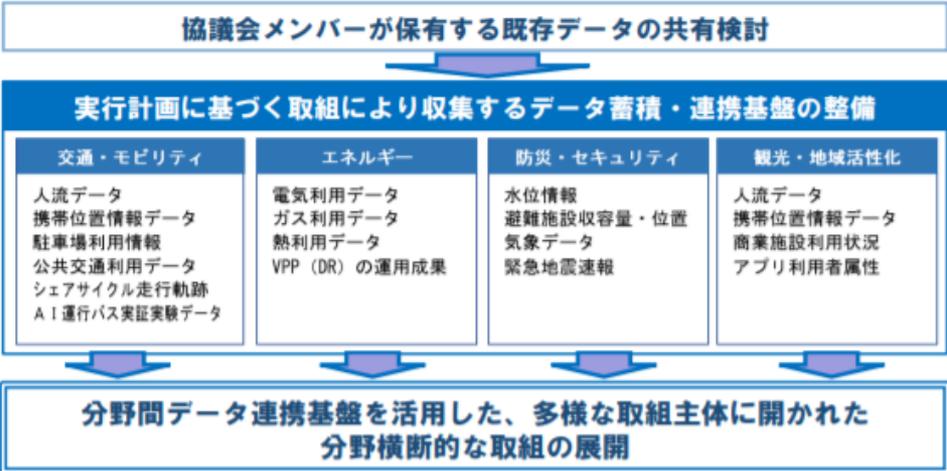
サービスに活用

新技術を活用した施設整備・サービス提供

- ・AIカメラによる人流解析
- ・携帯位置情報による流動調査
- ・新たな交通サービスの提供
- ・VPPの構築
- ・AI等による地冷プラント最適運転
- ・水位センサーの設置
- ・情報発信アプリの開発
- ・自動運転警備ロボット 等

■ データ利活用方針

- ・協議会メンバーで保有データの利活用ルール検討
- ・分野間データの連携基盤を整備し、分野横断的な取組の実施・検証、多様な主体を取り込んだ取組を展開

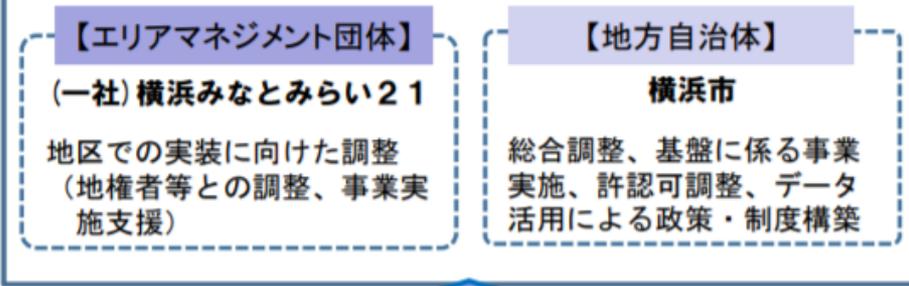
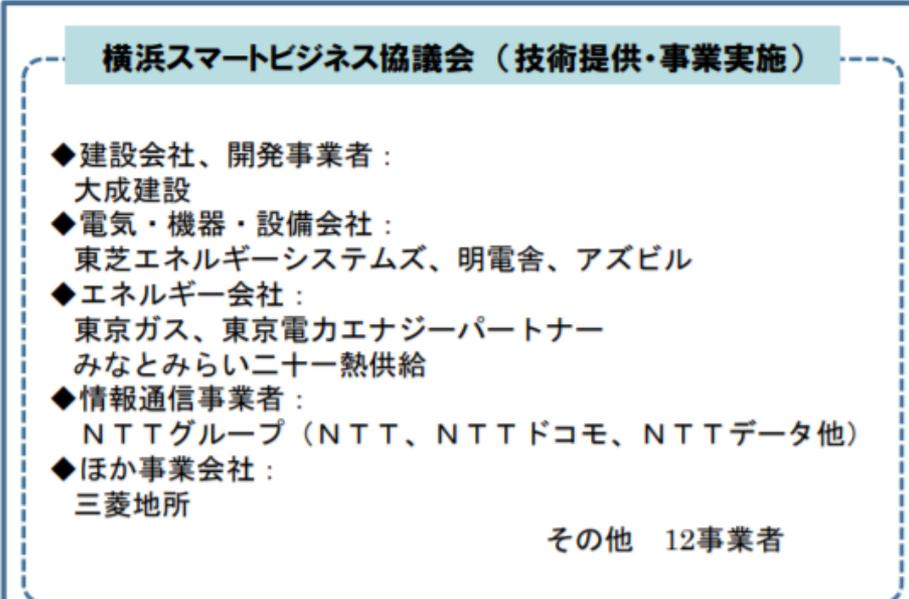


■ スケジュール



■ 運営体制

横浜みなとみらいスマートシティコンソーシアム (仮称)



■ 具体的な取組事項(案)

1. 交通・モビリティの円滑化、観光・地域活性化

(1) 地区内の移動実態やニーズを詳細に把握するため、移動に関するデータを収集し、デマンド型交通の拡充等により、ストレスのない移動環境を実現

- ・AIカメラによる人流解析
- ・携帯電話ネットワークの位置情報ネットワークを活用した流動調査

(2) 人流データ等の活用による効果的な情報発信

- ・モバイルアプリによる就業者向け情報提供
- ・来街者向けの新たな観光案内サイトの創設
- ・スマートモビリティを使用した新たな観光体験の提供
- ・モバイルバッテリーシェアリング

2. エネルギーの最適化

(1) エリア全体のエネルギー使用量等のデータを収集

- ・みなとみらい21地区見える化

(2) データ活用による供給側の最適化

- ・VPP(バーチャルパワープラント)の構築(駅舎、ビルなどにおける蓄電池等の導入)
- ・xEVおよび充放電器の普及
- ・地域冷暖房施設における最適運転管理システムと高効率熱源の導入

(3) データ活用による需要側の最適化

- ・ナッジによる省エネ行動促進

3. 防災力・セキュリティ強化

(1) VPP構築事業を展開し、災害時におけるエネルギーの確保を図るとともに、センサー等を設置し、災害時の被害リスクの予測と災害対応等に活用

- ・VPPの構築、xEVおよび充放電器の普及(再掲)
- ・都市型浸水リスクの予測管理システムの導入

(2) 人流データ等を活用した災害発生時の効果的な避難誘導等の情報発信

- ・デジタルサイネージを活用した緊急情報の発信
- ・被災状況や負傷者搬送を俯瞰する「災害ダッシュボード」の活用
- ・自動運転警備・清掃・運搬ロボット等の導入
- ・MRデバイスの導入

グローバルMICE都市として、世界に向けて発信

アジア・スマートシティ会議を始め、地区内で開催される国際会議等において、取組を積極的にPRし、実装モデルの他地区への展開を図る



第7回アジア・スマートシティ会議(ASCC) 会場:ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル (2012年からこれまで7回横浜市において開催)

■ 事業のセールスポイント

異なる特徴のエリアが隣接する（ビジネス&文化&自然）都心部において、エリア間をエレベーター感覚で移動できる【スマートモビリティ+データ】で接続する。それにより「オープンイノベーション」を導く、就業者/来訪者の交流や自然文化との出会いが促進される都市空間を形成する。

位置図



■ 本事業全体の概要

限られたエリア内での生活から、街の様々なコンテンツや出会いを楽しめる生活へ



エリアの連坦概念図



イノベーションを導く仕組み

- ・オフィス外移動に対する心理的障壁の低減
- ・様々な人との交流による共創指向
- ・普段と異なる環境から得られる思考の刺激

■ 対象区域の概要

- ・みなとみらい21, 関内関外地区
- ・居住者: 約1万人、従業者: 約19万人、186ha (みなとみらい21)
- ・特徴: オフィス街/みなとみらい、商業地域/関内 (中華街) アート文化/関外(黄金町)

■ 対象区域のビジョン

- 市民力と創造力により新しい「横浜らしさ」を産み出す都市
- ・交流拠点都市
 - ・活力創造都市
 - ・生活快適都市
 - ・環境行動都市
 - ・安心安全都市



目的地と連動したデマンド送迎サービス

・移動先のアクティビティ（レストランや会議室等）と連動して、一括で予約と支払いができるモビリティ就業者サービス



地域の情報集約モビリティハブ

・移動先の徒歩回遊を促す為の情報センターとして、また地域のコミュニティ機能やマルチモーダル拠点としてのモビリティハブ拠点



人と行動のマッチング 人・街データプラットフォーム

・個人属性や嗜好、そして街の混雑情報を一元管理し、個々人の移動を含む最適なアクティビティスケジュールを提案するデータプラットフォーム

■ まちの将来像

・グローバル企業の本社・R&D拠点が多数集積する業務/商業地区のほか、ベンチャー企業支援拠点/中核的MICE拠点/エンターテイメント施設を有し観光地としても人気が高い地区のポテンシャルを引き出しなが、多様な人が交流する事によりオープンイノベーションを推進し、新たな価値を創造・発信する都市空間の形成を目指す。

・交通/モビリティ、エネルギー、防災/セキュリティ、観光/地域活性化の各分野における課題解決に向けて、全体最適な取組の計画と実施、検証とさらなる取組実施のサイクルを回すことのできる実効性のある公民連携で推進する。

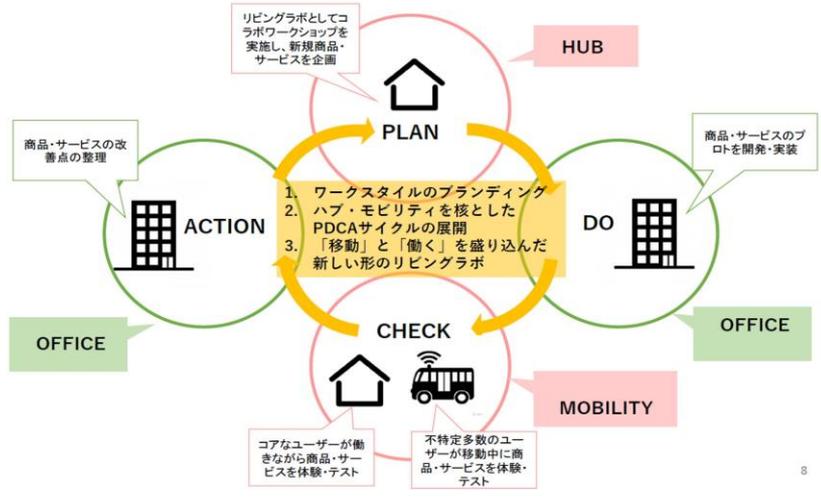
イノベーション都市・横浜

●イノベーション人材・企業育成活動



新しい働き方提案事例

●移動空間やハブがアイデアを磨く場所となる (=リビングラボ)



●新生活様式：自由な時間と場所の過ごし方提案

